

イエスのことば 第8回

「神は霊ですから、神を礼拝する人は、霊と真理によって礼拝しなければなりません。」

(ヨハネ4:24) 新改訳2017 ただし、御霊→霊

□文脈の確認

1. メシアはユダヤ人の王として来る(マタ2:2)。そしてメシアの王国では、ユダヤ人のみならず、全世界を治める。
2. イエスをその王である、と神が認めた出来事が、3つ続いて起きた。
 - (1) イエスがヨルダン川で先駆者ヨハネから洗礼を受けたときに、聖霊なる神が鳩の姿で現れ、父なる神の声が天から響いた。
 - (2) イエスが、荒野で40日間、サタンの誘惑を受けて、これを退けた。
 - (3) 先駆者ヨハネが、荒野から戻って来たイエスを指して、メシアであると証言した。
3. 第三の出来事に続いて、イエスの初期の弟子たち5人がそろった。
4. 先駆者ヨハネの証言から7日目、ある婚礼の祝宴で、イエスは最初の奇跡を行った。
5. 婚礼の祝宴に出席した後、イエスは母や弟たち、そして5人の弟子たちといっしょに、ガリラヤ湖畔の町カペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在した(ヨハネ2:12)。メシアとして立つ前の、最後の家族旅行であった。
6. カペナウムに滞在して「長い日数ではなかったが」、春の過越の祭りが近づいた。
7. 紀元27年の春、イエスは、5人の弟子たちを連れてエルサレムに上った。神殿域に入ると、そこにいた商売人たちを追い出して神殿を一時占拠し、自分がメシアであると宣言した。そして、過越の祭りの期間中、多くのしるしを人々の前で行った。
8. そのようなしるしを見た人々の中に、ユダヤ教パリサイ派の有力者のひとり、ニコデモがいた。イエスに面会を求めてきたニコデモに応じて、イエスは、御霊によって新しく生まれることが、神の国に入るために必要であることを教えた。・・・前回は、このニコデモとの対話の中での、イエスのことばを取り上げた。
9. この後、先駆者ヨハネがガリラヤとペレアの領主ヘロデに捕らえられ、ヨルダン川東側のペレアで収監されるという事件が起きた(ルカ3:19~20、マタ14:3~5、マルコ6:17~20)。ヘロデは、ヘロデ大王の4番目の妻の子。
10. イエスは、ユダヤを去って、再びガリラヤに向かった(ヨハネ4:1~5)。そのとき、イエスと5人の弟子たちは、「サマリアを通過していかなければならなかった」(5節)。ペレアを通るのは避けた、ということである。本日のイエスのことばは、そのサマリアでの、ひとりの女性との対話である。

□本日のアウトライン

- A) 場面設定 (ヨハネ 4 : 5~9)
- B) 「イエスがメシアであること」を啓示するまでの 5 つのステップ (ヨハネ 4 : 10~26)
- C) サマリアの女の、イエスに対する認識の変化

A) 場面設定 (ヨハネ 4 : 5~9)

(1) 5 節 スカルという町に来た

- ① ヤコブがその子ヨセフに与えた地所 → 創世記 33 : 19、48 : 22、ヨシュア 24 : 32
- ② モーセ・ヨシュア→士師→王政の時代。イスラエル王国は、北のイスラエルと南のユダに分裂。紀元前 722 年、北王国は、東のメソポタミア地方の強国、アッシリアに滅ぼされた。
 - 北イスラエルの首都はサマリア
 - 住民は一部を除き、アッシリアに強制移住させられ、異民族が移植されて移り住んできた。
 - 残留していたイスラエル人と異民族が混血して、サマリア人となった。
 - 彼らは異民族の宗教の影響を受けながらも、モーセ五書を聖典とするサマリア聖書を保持して、聖書の神を信仰していた。
- ③ よって、イエスと弟子たちの一行は、昔はイスラエル民族のうちのヨセフ族の割り当て地であった場所に来た、ということ

(2) スカルという町は、シェケムの南に位置する町。二つの山、エバル山とゲリジム山の間にある。

- ① エジプトを出て荒野の 40 年の旅を終えて、ヨルダン川を渡ったあと、イスラエル民族は、ヨシュアの指導のもと、この二つの山の前に立って、建国式を行った。(申 11 : 29、27 : 12、ヨシュア 8 : 33~34)
- ② ヨシュア→士師→王政→分裂→北王国滅亡→南王国滅亡・バビロン捕囚→バビロン捕囚からの帰還→エルサレム神殿の再建
- ③ 捕囚から帰還したユダヤ人たちは、北部のガリラヤと南部のユダに帰還。中部のサマリアには、サマリア人が住んでいたので入れなかった。
- ④ サマリア人は、この地域での支配権を保持しようとして、エルサレムの神殿の再建に協力を申し出たが、帰還民はそれを断った (エズラ 4 : 1~5)。サマリア人はその後、神殿再建や町の再建を妨害した。
- ⑤ サマリア人は、エルサレムに対抗するため、モーセ五書のエルサレムに関する箇所を、ゲリジム山に書き換え、そこに神殿を建てて、そこで礼拝するようにした。→ヨハネ 4 : 20「私たちの先祖はこの山で礼拝しました」

- (3) 6節 ヤコブの井戸。イエスは旅の疲れから、その井戸の傍らにただ座っておられた。時はおよそ第6時、正午頃。
- (4) 8節 弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。
- (5) 7節 一人のサマリアの女が、水を汲みに来た。イエスは彼女に、「わたしに水を飲ませてください」と言った。
- (6) 9節 女は、「あなたはユダヤ人でしょう。なのに、どうして、サマリアの女の私に飲み水を求めるのですか。」
- ① これについて、福音書の記者である使徒ヨハネが次のように、解説を加えている。ユダヤ人はサマリア人と付き合いをしなかったのである。
 - ② 付き合いをしなかった・・・全く交渉を持たなかったということではない。対価を払って売り買いすることはよい。好意で何かしてあげるとか、してもらおう、ということとはしなかった、ということである。
 - ③ ここでは、イエスは、「対価を払うから飲み水をください」と言わずに、ただ「飲み水をください」と言ったので、サマリアの女は驚いたのである。
 - ④ しかも、ユダヤ人の男性が、サマリアの女に声をかけるということ自体、異常。このあと、弟子たちはイエスがサマリアの女と話しているのを見て、「驚いた。だが、『何をお求めですか』『なぜ彼女と話しておられるのですか』と言う人はだれもいなかった」(ヨハネ4:27)。弟子たちは、ユダヤ人のラビ(先生)であるイエスが、サマリア人の女と話していることに驚き、あり得ないことなので、それを話題にすることさえ、はばかったのであった。

B) 「イエスがメシアであること」を啓示するまでの5つのステップ(ヨハネ4:10~26)

(1) 新しい種類のいのちについて(10~14節)

- ① 10節・・・イエスが言った《その内容を直接的な言い方に変えると》「あなたは、わたしがだれかを知ったなら、あなたの方が水を求めたでしょう。そして、わたしは生ける水をあなたに与えたでしょう。」
 - 「生ける水」とは、当時の用語としては、容器の中に貯めた水ではなく、泉から湧き出る水や、井戸から汲んだばかりの水を指す。
- ② 11~12節・・・女が言った。「あなたは汲む物を持っておられませんし、この井戸は深いのです。」
- ③ 13節・・・イエスが言った。「この水を飲む人はみな、また渴く。しかし、わたしが与える水を飲む人は、決して渴くことがない。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出る。」
- ④ 14節・・・女が言った。「私がここに汲みに来なくてもよいように、その水を私にください。」

(2) 彼女自身のことについて (15~19 節)

- ① 15 節・・・イエスは言った。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」
- ② 16 節・・・女は言った。「私には夫はいません。」
- ③ 16~18 節・・・イエスは言った。「自分には夫がないと言ったのは、その通りである。あなたには夫が 5 人いたが、今一緒にいるのは夫ではない。あなたは本当のことを言った。」
- ④ 19 節・・・女は言った。「あなたは預言者だとお見受けします。」
 - サマリア人の聖書はモーセ五書だけ。モーセの次に来る預言者は、メシアであると信じていた。よって、サマリアの女が「あなたは預言者だとお見受けします」と言ったのは、「あなたはメシアかもしれません」という意味。

(3) 真の礼拝とは何によるのか (20~23 節)

- ① 20 節・・・女は話題を変えて、長年、サマリア人とユダヤ人との間で紛争になってきた聖地に関する問題をとりあげた。「私たちの先祖はこの山（ゲリジム山）で礼拝しましたが、あなたがたは礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」
- ② 21 節・・・イエスは女が《あなたは預言者（メシア）だとお見受けします》と言ったことばに応答して言った。「女の人よ、わたしを信じなさい。」
- ③ 21~23 節・・・イエスは続けて、真の礼拝について語る。

21 節 「この山でもなく、エルサレムでもないところで、あなたがたが父を礼拝する時が来る。」 → 特定の山の上、そこにある特定の神殿で礼拝するというのではなく、

23 節 「真の礼拝者たちが霊において【世界中どこでも、いつでも】父を礼拝する時が来る。」

22 節 「救いはユダヤ人から出るので、わたしたち（ユダヤ人）は知って礼拝していますが、あなたがた（サマリア人）は知らないで礼拝しています。」 → 神が選んだ場所はエルサレムであるということをユダヤ人は知って礼拝している。サマリア人はそれを知らないで礼拝している。

【しかし、そのエルサレムがどうなるのか、エルサレムで王として立つべきメシアは誰なのか、その知識を真理という。これについては 補足を参照】

23 節 「真の礼拝者たちが真理において(を知って)、父を礼拝する時が来る。」

23 節 「今がその時である。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられる。」

- (4) 父なる神について (24 節)・・・イエスは続けて、父なる神について語る。神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊と真理によって、礼拝しなければなりません。
- (5) 「イエスがメシアであること」について (25～26 節)
- ① 25 節 女は言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。
- ② 26 節 イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしが、それである。」

C) サマリアの女の、イエスに対する認識の変化

- (1) ユダヤ人 (9 節)
- (2) 主よ【英語では、Sir 尊敬の念をもつ呼びかけ】(11、15、19 節)
- (3) 預言者 (19 節)
- (4) メシア (25、29 節)

【補足】「霊と真理によって礼拝しなければならない」・・・真理とは何か

- (5) 先駆者ヨハネや当時のユダヤ人たちの、「真理」ということばの用法
- ① ヨハネ 5 : 33 あなたがた (ユダヤ人の指導者たち) はヨハネのところに人を遣わしました。彼は、真理について証しました。
- ヨハネが証言したのは、イエスがメシアであるということ
- ② ヨハネ 6 : 14 人々はイエスがなさったしるしを見て、「この方が世に来られるはずの預言者だというのは、真理である」と言った。
- ③ ヨハネ 7 : 40～41 このことばを聞いて、群衆の中には、「この方はあの預言者だというのは、真理である」と言う人たちがいた。別の人たちは「この方はキリスト (メシア) だ」と言った。
- ④ 結論：真理とは、「メシアは誰なのか、イエスがメシアである」ということ
- ⑤ 恵みと真理は、イエス・キリストによって実現した (ヨハネ 1 : 17)
- (6) 真理を知る (ヨハネ 8 : 32) イエスがメシアであると信じる
- (7) 真理を行う (ヨハネ 3 : 21) イエスをメシアであると公言し、弟子となる
- (8) 悪魔は真理に立っていない (ヨハネ 8 : 44) 悪魔はメシアによる救いの対象ではない。「最初から人殺し」、罪の起源である悪魔、人を誘惑して罪に墮とした
- (9) 真理の御霊
- ① 御霊は、イエスがメシアであると証しする (ヨハネ 15 : 26)
- ② 御霊は、イエスをメシアであると信じた者たちを、すべての真理へと導く (ヨハネ 16 : 13)。すべての真理とは、「これから起きること」(ヨハネ 16 : 13)